



小樽商科大学の地域連携PBL

～地域連携PBLの諸効果を高める

コーディネーターの役割を中心に～

- ① 大学の紹介
- ② 取組の概要(「地域連携キャリア開発(4単位)」)
- ③ 取組の経緯(コーディネータの役割に注目して)
- ④ 取組の課題と今後の展開

国立大学法人 小樽商科大学

商学部社会情報学科／学長特別補佐(アクティブ・ラーニング推進担当)

大津 晶

ohtsu@res.otaru-uc.ac.jp



大学の紹介



国立大学法人 小樽商科大学の概要

・ 標 語:

「北に一星あり、小なれどその輝光強し」

・ 組 織:

◇ 学長:和田健夫(平成26年4月～)

◇ 学部:1学部4学科(定員515)

⇒商学部 経済学科／商学科／企業法学科／社会情報学科

◇ 大学院:2専攻

⇒現代商学専攻(博士前後期課程)

／アントレプレナーシップ専攻(専門職課程)

◇ 教職員:役員6名, 教員127名, 事務職員66名

・ 学 生:

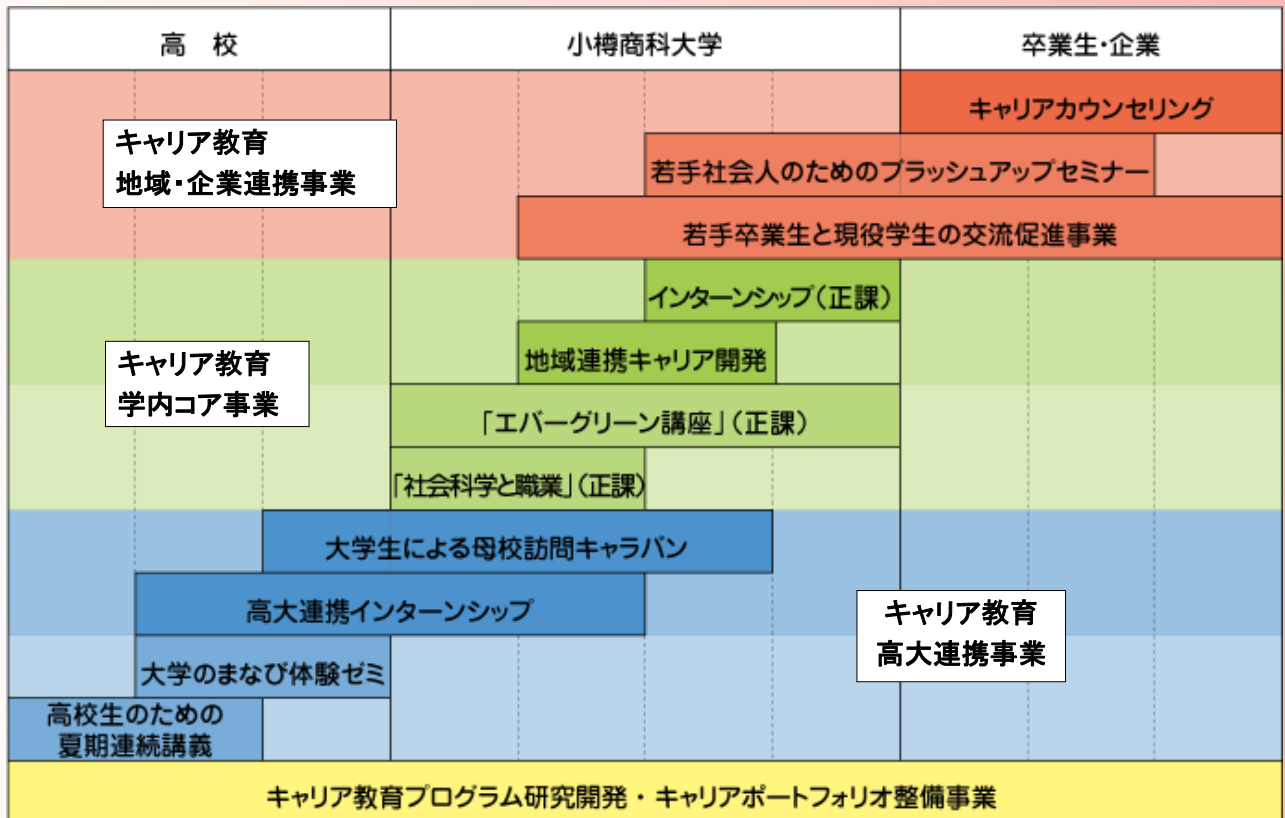
◇ 2,295名(昼間コース2,076名／夜間主コース219名)在籍

◇ 外国人留学生は, 14カ国83名 (※いずれも平成26年度)

小樽商科大学の地域連携PBL ～地域連携PBLの諸効果を高めるコーディネーターの役割を中心に～



キャリアデザイン10年支援プログラム



小樽商科大学の地域連携PBL ～地域連携PBLの諸効果を高めるコーディネーターの役割を中心に～



学生を徹底して鍛える教育環境作り

社会が求める人材像

主体的に学び考え、どんな状況にも対応できる人材

大学教育に求められること ~学生の主体的な学びの確立~

学修時間の実質的な増加・確保により、

- ① 「答えのない問題」を発見、最善解を導くために必要な専門的知識及び汎用的能力を鍛えること
- ② 実習や体験活動などの教育によって知的な基礎に裏付けられた技術や技能を身に付けること

大学教育の質的転換のための取組

学修環境の整備に向けた改革を行う大学を重点的に支援。教員と学生とが意思疎通を図りつつ、学生が相互に刺激を与えながら知的に成長する課題解決型の能動的学修を中心とした教育への転換を促進。

小樽商科大学 アクティブラーニングのための 教育環境整備

「学生の主体的な学びの確立」を目標とし、実践的な取組を活用したアクティブラーニングのための教育環境を整備。グループワーク、プレゼンテーション、ディベートなどの手法を実践し、学生が自ら考える力やコミュニケーション力を強化する。



学生が意見をタブレットに入力



ディスカッションテーブルに意見やデータを送信し意見交換

千葉大学 アカデミック・リンク・センター

学生が受け身ではなく、自ら問題意識を持って自発的に学ぶことができるように、学習環境とコンテンツ提供環境を一つにする試み。「『学習とコンテンツの近接』による能動的学習」を実現、『考える学生』を創造。

グループや個人で学習し、自らの学習成果を公表する場

アクティブ・ラーニング・スペース

コンテンツ・ラボ

授業の事前事後学習等に有益な資料や電子教材、授業の映像等のコンテンツ提供

ティーチング・ハブ

教育におけるICT活用の支援、学習支援のための学生スタッフの育成

国際基督教大 自発的学修を推進するライティング センターの整備



図書館の一角に整備されている「ライティングセンター」（修辞上の指導のほか、論文構成・表現力向上に係る助言も行う）を拡張。教員や大学院生チューターが関わり、授業レポートから卒論まで日本語・英語によるサポートを実施。

日本経済再生本部第4回産業競争力会議(平成25年3月15日)下村大臣資料より
小樽商科大学の地域連携PBL ~地域連携PBLの諸効果を高めるコーディネーターの役割を中心に~



取組の概要



小樽商大の地域連携型PBL概要

■ 概要

- 科目名： 地域連携キャリア開発(※28年度より名称変更)
- 配当年次： 2年次配当発展科目(通年4単位)

■ 目的

- 地域資源を活用したPBLによる実践的キャリア教育の開発
- 学生が主役となった大学と地域の協働プラットフォームの構築

■ 講義の内容

- 課題解決・プロジェクト実践型演習
 - ・ グループ演習
 - ・ フィールドワーク, 現地調査
 - ・ プレゼンテーションなど

の実践的技能の習得を重視しつつ, 与えられた課題に取り組む.

- 活動の過程で, 社会人基礎力の獲得と育成を目指す.



小樽商大の地域連携型PBL概要

■ アクティブ・ラーニングとしてのねらい

- ◇ フィールドワークや地域インターンシップを通じて, 地域社会の具体的な政策課題の理解を深める.

→「**地域で学ぶ**」※具体的な課題, 大人の社会

- ◇ 講義等で学んだ理論や分析手法, グループワークの手法などを用いて解決策の提案等を行うことで実践的応用力を身に付ける.

→「**実践と共有**」※課題発見・解決, 協働協学

- ◇ 3年次以降の専門科目や研究指導で学ぶ, より深い教養や一層高度な専門知識を習得する意欲の向上を図る.

→「**経験の学習**」※知識≡智慧, 理解≡納得

- ◇ 大学の学びと地域・社会の関係性への理解を深め, 社会人として必要とされる力を獲得する.

→「**社会人基礎力**」※オトナの心・技・体



■「地域連携キャリア開発」の位置づけ

	地域連携キャリア開発 「地域課題解決型長期インターンシップ」	インターンシップ(正課) 「職業体験型短期集中インターンシップ」
配当年次・単位	2年次(4単位)	3・4年次(2単位)
カテゴリ	自学科発展科目	自学科発展科目
キャップ制	適用外	適用外
実施時期・期間	演習(5月～12月・コマ外で活動) +各種報告会・ワークショップなど	研修(夏期休業期間中・2週間程度) +事前・事後指導・意見交換会等
研修受入機関	小樽市内公的機関+民間企業 大学が斡旋するもの+自分で開拓	民間企業(札幌圏)が中心 すべて大学が斡旋
研修の内容等	地域課題解決・プロジェクト実践型 事前に設定された課題+自分で開拓	職場体験型が中心 研修先が決める
活動単位	グループ	個人
研修場所	学内2:受入機関2:小樽市内6	ほぼ受入機関

小樽商科大学の地域連携PBL ～地域連携PBLの諸効果を高めるコーディネーターの役割を中心に～

8



■プロジェクトの一覧(H26)

- 履修学生: 58名
- プロジェクト数: 11テーマ/12チーム

➤ 選択課題コース

- ① しりべしの食プロモーション((株)たるしえ, 小樽市企画政策室等)
- ② ソーシャルメディアの活用(北海道Likers等)
- ③ コンテンツツーリズムの推進(余市観光協会, NHK札幌放送局等)
- ④ 小樽運河のいまむかし(小樽運河クリーンプロジェクト, DOST等)
- ⑤ 小樽美術館の振興(小樽市美術館, 小樽商大ビジネススクール)
- ⑥ こどもの体力増進(小樽勤労者山岳会等)

➤ 提案課題コース

- ① 緑丘ネットワークの強化(緑丘会=同窓会等)
- ② 姉妹都市交流の促進(小樽市企画政策室, ニュージーランド協会等)
- ③ 小樽堺町通りの認知度向上(小樽堺町通り商店街振興組合等)
- ④ 音楽イベントによる地域活性化(ライブハウス&スタジオCRU-Z等)
- ⑤ 市立病院デジタルサイネージの改良(小樽市立病院)

小樽商科大学の地域連携PBL ～地域連携PBLの諸効果を高めるコーディネーターの役割を中心に～

9



取組の経緯



地域連携PBLの普及発展の経緯

- 第1期:平成20年度(H20.11～H21.3)
 - 経済産業省「社会人基礎力育成事業」
 - 正課外活動「観光」に特化した4テーマ
- 第2期:平成21年度
 - プロジェクトのテーマ拡大
 - 正課科目開講(2単位化※その後4単位)
- 第3期:平成22年度
 - プロジェクトのエリア拡大
 - キャリア教育としての位置づけ
- 第4期:平成23年度
 - プロジェクトの連携先拡大
 - 就業力育成支援GP ⇒ 産業界ニーズGP
- 第5期:平成24年度
 - 履修者／プロジェクト／チーム数の規模拡大
 - 連携先の多様化
- 第6～7期:平成25～26年度
 - 管理・運営体制の充実
 - COC／アクティブ・ラーニングの位置づけ
- 第8期:平成27年度
 - 「インターンシップ」との統合整理・通年化
 - AP-IV(長期学外学修)への位置づけ

大津

富樫(小樽市から出向)



湯谷(本学OB・業務委託)



小山田(本学ビジネス
スクール修了生)





□ 第1期：準備・開発・試行期

➤ 経済産業省「社会人基礎力育成事業」

- ◇ 社会人基礎力育成のためのカリキュラム／評価手法の開発
- ◇ [小樽市×小樽商大]の包括連携協定
- ◇ 「社会人基礎力育成グランプリ2009」優秀賞

➤ 「観光」に特化した4テーマ

- ①札幌圏マーケティング／②国際観光化／
- ③地域ブランド商品開発／④滞在型観光の推進

➤ 任意参加プロジェクト

- ◇ ゼミ単位で参加学生を確保
- ◇ 冬期間(11月～3月)に集中的に活動&単位ナシ

◇ 運営体制

- ◇ 外部人材(小樽市産業振興課出向職員)によるプログラム設計
- ◇ 外部資金を活用した事業構築, 地域のステークホルダーとの連携・地域広報において極めて重要な役割を担った

小樽商科大学の地域連携PBL ～地域連携PBLの諸効果を高めるコーディネーターの役割を中心に～

12



□ 第2期：プロジェクト基盤形成期

➤ プロジェクトの＜テーマ拡大＞

- ① 中心市街地活性化(商店街・手宮線跡地・学生まちなか居住)
- ② ご当地グルメの開発
- ③ おたるスイーツの開発
- ④ 小樽物産のeコマース構築・運営支援

➤ 正課科目開講

- ◇ 学科発展科目／通年2単位(翌年度から4単位)／キャンプ外認定(=「インターンシップ」)
- ◇ 活動期間の検討(冬期→夏期)

◇ 運営体制

- ◇ オーガナイザー(大津)は学内調整, コーディネーターは学外機関との連携に役割分担し, 緊密な連絡体制
- ◇ プロジェクト組成のためのキーファクターが明らかに

小樽商科大学の地域連携PBL ～地域連携PBLの諸効果を高めるコーディネーターの役割を中心に～

13



□ 第3期：プロジェクト充実期

➤ プロジェクトの＜エリア拡大＞

◇ 発見的課題：

- ① 築港エリアの活性化プラン
- ② 中国・ロシアへの小樽PR戦略の提案

◇ 実践的課題：

- ③ 商店街活性化イベントの実施
- ④ 歴史的建造物の利活用

➤ キャリア教育プログラムとしての位置づけ

- ◇ 「社会科学と職業」：Ⅰ年次開講／学内演習
- ◇ 「エバーグリーン講座」：Ⅰ年次開講／大人数
- ◇ 「インターンシップ」：ⅢⅣ年次開講／企業インターンシップ



□ 第4期：協働体制拡大期

➤ プロジェクトの＜連携先拡大＞

◇ 地域の民間企業等との連携

- ① 小樽青年会議所・小樽潮陵高校・小樽商業高校
- ② 中小起業家同友会
- ③ 北海道新聞・北日本広告社など
- ④ ジェイアール北海道開発・小樽駅
- ⑤ NPO法人小樽ソーシャルネットワーク

➤ 文科省「就業力育成支援事業」等

□ 第5期: 全方位的発展期

➤ 履修学生の増加

- ◇ H21年度: 21名 (4テーマ / 6チーム)
- ◇ H22年度: 26名 (4テーマ / 8チーム)
- ◇ H23年度: 32名 (6テーマ / 6チーム)
- ◇ H24年度: 70名 (12テーマ / 14チーム)
- ◇ H25年度: 46名 (11テーマ / 11チーム)

➤ 課題・エリア・関係団体等の多様化

- ・ 小樽後志の地産地消推進 (小樽商工会議所など)
- ・ 小樽デザインイノベーション (市内デザイン会社)
- ・ 観光情報コンテンツ活用 (小樽市観光推進室)
- ・ ソーシャルキャピタル増進 (NPO法人小樽ソーシャルネットワーク)
- ・ 祝津エリアプロモーション (NPO法人おたる祝津たなげ会)
- ・ デジタルサイネージ活用 (市内ウェブ制作会社)
- ・ スポーツ地域・世代交流 (市民活動団体)
- ・ ラジオドラマ制作 (市内コミュニティFM放送局)
- ・ 健康食品の開発 (市内酒造会社)
- ・ ダンスカリキュラム制作 (市内中学校)
- ・ 小樽手稲地域間交流 (隣接自治体および大学)
- ・ 小樽運河の再生 (市民活動団体)

小樽商科大学の地域連携PBL ～地域連携PBLの諸効果を高めるコーディネーターの役割を中心に～

□ 第6期～: 管理運営体制の充実

➤ ICTを活用したPM

- ◇ グループウェアの活用: 進捗管理 + 連携先との情報共有
- ◇ ソーシャルメディアを活用したプロジェクトの見える化



www.facebook.com/oucmaji

◇ 運営体制

- ◇ 小樽市内で市民活動を実践していた本学OBをコーディネーター任用
- ◇ 手続き上は所属企業 (札幌市内人材派遣業) に対して、業務を委託
- ◇ コーディネーターに期待される役割・機能が増加 + 多様化

小樽商科大学の地域連携PBL ～地域連携PBLの諸効果を高めるコーディネーターの役割を中心に～



取組の課題

小樽商科大学の地域連携PBL ～地域連携PBLの諸効果をも高めるコーディネーターの役割を中心に～

18



地域連携型PBLの課題

① 学生・教員・地域の認識の違い

	大学・学生	行政・市民・事業者
目的	<ul style="list-style-type: none"> •学生の問題意識や主体性の向上 •理論の応用力, 実践能力の開発 •プロマネの実践 	<ul style="list-style-type: none"> •斬新さ, 柔軟な発想, 行動力を期待 •具体的な成果, 効果, 実績 •地元への就職
運営	<ul style="list-style-type: none"> •毎年開講, 開講期間の制約 •“講義”や“単位”の割り切り 	<ul style="list-style-type: none"> •継続性と発展性が無い不満 •恒常的関わり, 際限のない奉仕への期待

② 持続的・効果的な実施体制

- ◇ 運営基盤の属人性(特定の“変人”だけが熱中)
- ◇ ノウハウが偏って蓄積され, 担当教員が転出すると継続困難

③ 費用対効果の悪さ(※ただし未検証)

- ◇ 学生が地域にもたらしている価値?
- ◇ PBLの高コスト構造
- ◇ 大学・地域の特性とモデル性の矛盾
- ◇ 先進事例から普及段階へ(普通の学生のためのPBL)

小樽商科大学の地域連携PBL ～地域連携PBLの諸効果をも高めるコーディネーターの役割を中心に～

19



地域連携型PBLの課題

④ 望ましい成績評価の在り方

- ◇ 学生の活動自体(過程)／PJのアウトカム(結果)
- ◇ 絶対的な評価は難しい. そもそも必要か
 - ✓ 被評価者(学生)は納得いくのか
 - ✓ 何をエビデンスとするのか
- ◇ 教員の評価負担が大きいと普及しない
 - ✓ 複数教員間および学外協力機関等との間の調整
- ◇ 求められる“力”は多様／変化するのではないか
 - ✓ プロジェクトの性質, 進捗, 局面
 - ✓ 評価者の視点, コンセプト

⑤ カリキュラム上の位置づけ／他の科目との関係

- ◇ 社会・地域の環境変化
 - ✓ 「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」の改正
 - ✓ グローバル人材育成／地域志向教育との関係

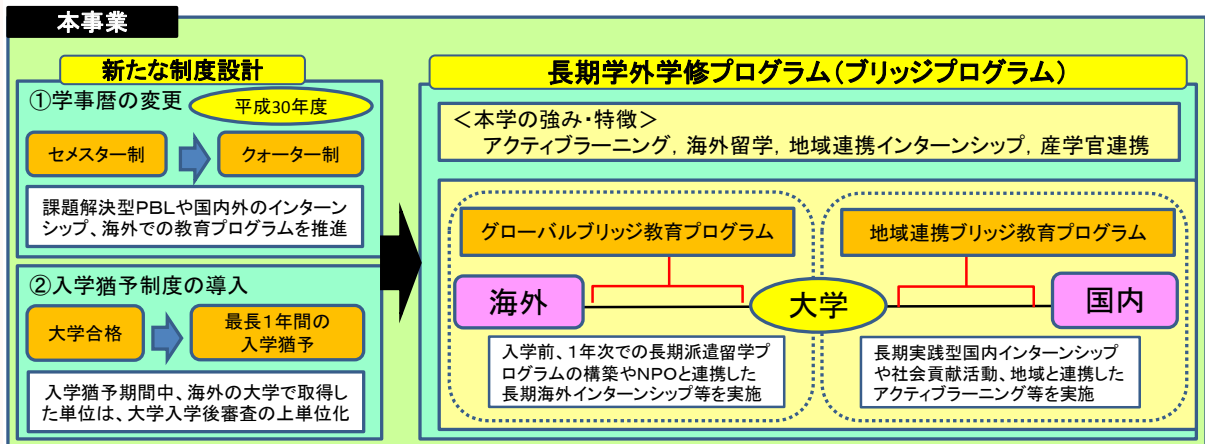
小樽商科大学の地域連携PBL ～地域連携PBLの諸効果を高めるコーディネーターの役割を中心に～



【参考】大学教育再生加速プログラム(テーマⅣ)

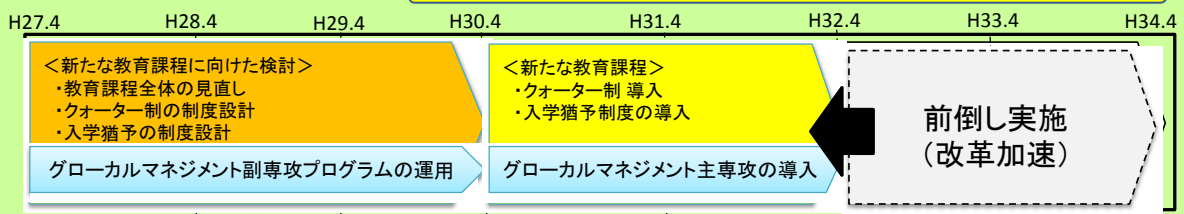
小樽商科大学における長期学外学修プログラムの導入

「クォーター制」及び「入学猶予制度」の導入により教育課程の改革を前倒しで実施し、本学が目指すグローバル人材の育成に資する多様な長期学外学修プログラム(ブリッジ教育プログラム)を構築する。



本学が目指す教育改革の加速

グローバル人材育成における「アクティブラーニング」の進化



小樽商科大学の地域連携PBL ～地域連携PBLの諸効果を高めるコーディネーターの役割を中心に～